

体育科学習指導案

指導者 熊野町立熊野第四小学校
教諭 濱田 孝之輔

- 1 日時 令和6年11月1日(金) 第3校時 熊野町民体育館
- 2 学年 第5学年1組 男子11名 女子14名 計25名
- 3 単元名 「劇団熊四!～全員・全力・全身で表現する5-1オリジナルミュージカル～」
F 表現運動 ア 表現

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説体育編第5・6学年「F 表現運動」「ア 表現」を受けて設定した。表現では、その行い方を理解するとともに、表したい感じを表現したり踊りで交流したりする力(知識及び技能)や、自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力(思考力、判断力、表現力等)、運動に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い助け合って踊ったり、場の安全に気を配ったりする力(学びに向かう力、人間性等)を育成することをねらっている。

(2) 教材観

本単元では、「自己の心身を解き放して、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい運動」(小学校学習指導要領《平成29年告示》解説体育編より抜粋)から、児童と教師全員で、常に全力で、全身を使って表現してほしいという思いが生まれ、オリジナルミュージカルという教材を設定した。この教材の主な特徴は2点ある。

1点目は、教師がリードする時間と児童が主体的に進めていく時間を設定している点である。本単元を通して、教師リードで動きのレパートリーを教える時間と児童がその時間の中で身に付けた動きを高める時間に分けることで、「何をどのように表現すればいいか分からない。」という課題が生じないようにする。また、教師が率先して楽しみながら表現したり、児童のどの動きも肯定的な評価で価値付けたりすることで、児童にとって安心して表現できる環境づくりに繋がると考える。

2点目は、表現するのに適した場を設定している点である。体育館を広く使うと、表現している児童またはグループがそれぞれ孤立する状況が生まれる。そのため、体育館をミニコーンで12m×12mの正方形に区切り、学級全体では少し狭いと感じるような場をつくることとする。狭い空間により、児童一人一人の表現が極めて目立つようなことがなく、「全員で表現していて、失敗しても気にならない。」という表現への肯定的な気持ちが生まれる。また、即興的な表現を大切にするため、タブレットを活用した定点カメラを用意する。児童の即興的な表現の中にいい動きや学級全員に身に付けてもらいたい動きがあっても、その表現をもう一度再現することは難しい。そこでタブレットを活用した定点カメラにより、児童の即興性を失わせることなく、即興的な表現を再度見返すことができると考える。

また、本単元では、児童にいろいろな題材の表現を取り組ませる中で、実態に応じて、学級でのきまりや場の設定を変更していくこととする。

(3) 児童観

本学級の児童は、体育科の授業のみならず、日頃他教科の授業でも振り返りの時間を大切にしている児童が多く、単元前の「体育の授業では、振り返りの時間を大切にしていますか。」「体育の授業では、振り返りで分かったこと・考えたことを使ってできるようになったことがありましたか。」というアンケートには、それぞれ96%の児童(25人中24人)、96%の児童(25人中24人)が肯定的な回答をしている。児童一人一人の技能の向上や思考の深まりを生むため、この児童の実態を生かして、毎時間に行うリフレクションタイム(集団思考場面)を活用して、個人やグループの考えを集約したり、題材を基にした動きについて考えたりすることが効果的であると考え。

一方で、単元前の「表現運動で不安なことはありますか。」というアンケートに対しては、否定的

な回答がほとんどだった。この項目に関して、「人前で踊ることが恥ずかしい。」「どのように動けばいいのか分からない。」という記述が見られた。このような課題を解決するために、指導していく教師自身が心から楽しんだり、表現する場所の雰囲気づくりをしたりしていく必要があると考えられる。

また、学習を始めていくにあたって、本単元で学習する「表現運動」と日頃から親しみのある「ダンス」の違いについて学級で共通認識を図っておく必要がある。

(4) 指導観（太字網掛けは共生の視点・太字下線は関わり合いの視点）

指導にあたっては、単元のゴールに「劇団熊四！5－1オリジナルミュージカル発表会」を設定し、児童一人一人またはグループの表現のよさを認め合う時間を確保し、仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わわせたい。

また、自己の課題（恥ずかしい・分からないなど）を解決するために、単元前半に型のある表現を活用した慣れの運動や教師の動きを真似して表現する時間を用意する。

さらに、グループの課題（表現にまとまりがない、動きが単調など）を解決するために、試しの運動とメインの運動の繋がりを意識していきたい。本単元では、試しの運動は教師がリードして動きを伝えていき、メインの運動では試しの運動であらかじめ経験している動きを変容させていく展開にしている。表現運動で大切な経験を基に、グループでまとまりのある踊りにしたり、メリハリのある動きにしたりすることでグループの課題を解決していく。

このような自己やグループの課題に気付かせるための方法として、タブレットを活用した定点カメラの設置をしておく。本単元では、児童一人一人の即興的な表現を大切にしていきたいため、児童の自然体の姿を映し出すのに最適である。表現する自然体の様子を見て振り返ったり、表現シート（模造紙）を用意し、自己または自己のグループの表現の仕方だけでなく、他グループの表現の仕方に目を向け、お互いがアドバイスし合える状況をつくったりすることで、課題発見・解決へと繋げていきたい。このような指導の中で、**自分たちの課題を把握、解決していき、それぞれのグループで選んだ題材の動きに変化を付けたり、表現することが苦手な児童でも自己の心身を解き放てるような環境をつくったりすることで、学級の皆が表現運動の楽しさを味わえるようにしていきたい。**また、毎時間の授業での児童の振り返りを基に学習のめあてを設定することで、児童が意欲的に取り組むことができるようにしていきたい。

5 単元の目標

知識及び技能	表現の行い方を理解するとともに、いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ったり、簡単なひとまとまりの動きにして踊ったりすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	運動に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い助け合って踊ったり、場の安全に気を配ったりすることができるようにする。

6 単元の評価規準

知識・技能	① 表現の行い方を言ったり書いたりしている。 ② いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ることができる。 ③ 簡単なひとまとまりの動きにして踊ることができる。
思考・判断・表現	① 自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫している。 ② 自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	① 運動に積極的に取り組もうとしている。 ② 互いのよさを認め合い助け合って踊ろうとしている。 ③ 場の安全に気を配っている。

本質的な問い（何度も問い直され答えが更新され続ける問い）
表現運動の楽しさって何だろう。

単元を置く問い（単元を通して考え深めていく問い）
学級の皆が劇団熊四（ミュージカル）を楽しむためにはどうしたらいいだろう。



次	第1次	第2次	第3次
時数	1	2	3
0分	①オリエンテーション （準備運動・場の準備・学習のルールなどの確認）	②慣れの運動 （フォーワークダンスを基にした動きの導入）	③整列・挨拶・準備運動・場の準備
学習の流れ	②慣れの運動 （フォーワークダンスを基にした動きの導入）	③課題発見RT	④慣れの運動（選んだ題材を基に）
	③めあての確認 「笑顔で全力で体を動かすことができる。」	④めあての確認	⑤課題解決RT（グループ）
	④試みの運動 （リズムダンスを基にした動きの導入）	⑤本時のめあて 学級全員でメリハリのある「ジャングル」を表現することができる。	⑥メインの運動（児童主体）
	⑤メインの運動 （リズムダンスを応用したひと流れの動きの導入）	⑥課題解決RT	⑦本時のめあてRT
	⑥本時のめあてRT	⑦メインの運動（児童主体）	⑧振り回り（個人）・片付け・挨拶
	⑦振り回り（個人）・片付け	⑧振り回り（個人）・片付け・挨拶	⑨振り回り（個人）・片付け・挨拶
	⑧振り回り（個人）・片付け・挨拶	⑨振り回り（個人）・片付け・挨拶	⑩振り回り（個人）・片付け・挨拶
	⑩振り回り（個人）・片付け・挨拶	⑪振り回り（個人）・片付け・挨拶	⑫振り回り（個人）・片付け・挨拶
	⑪振り回り（個人）・片付け・挨拶	⑫振り回り（個人）・片付け・挨拶	⑬振り回り（個人）・片付け・挨拶
	⑫振り回り（個人）・片付け・挨拶	⑭振り回り（個人）・片付け・挨拶	⑮振り回り（個人）・片付け・挨拶
45分	◆予想される振り返り ・どの動きも皆が「いいね！」と言ってくれるから恥ずかしくなかった。 ・テーマを決めて踊ってみるのも楽しそう。	◆予想される振り返り ・底意を表現するとき、友達と一緒に緩やかな様子を表現することができた。 ・動きがずっと同じリズムになってしまおう。	◆予想される振り返り ・チームで見合うことで、1番盛り上げたいところの表現の仕方を工夫することができた。 ・他のグループと意見交換をして劇団熊四の表現を高めたい。
主 知・技 能 ・判・表 主体的	①（ワークシート・ICT）	②（ワークシート・ICT）	③（ワークシート・ICT）
	③（ICT）		④（ワークシート・ICT）
			⑤（ワークシート・ICT）

8 本時の学習展開（本時第6時／全7時）

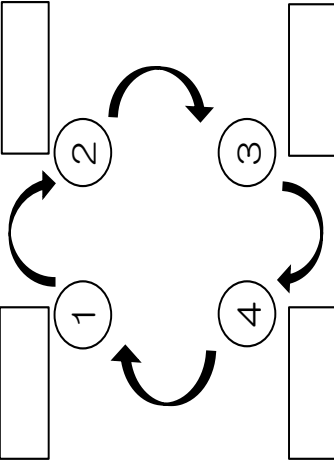
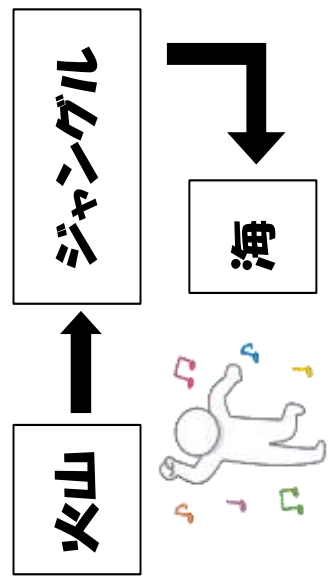
（1）本時の目標

- ・グループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫することができるようにする。
- （思考力、判断力、表現力等）

（2）学習の展開

主な学習活動	◇指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て ☆児童の気付き R T・・・リフレクションタイム ① 課題発見R T ② 課題解決R T ③ 本時のめあてR T ④ 見つめ直すR T ◎共生の視点 ■関わり合いの視点	評価（☆） 【評価方法】
1 曲を活用して、リズムに乗りながら準備運動をする。 2 慣れの運動をする。 （選んだ題材を基に） 3 本時のめあてを確認する。 【①課題発見R T】	◇教師リードまたはペアで行うことで、児童の心と体をほぐすことに繋げるようにする。 ◇どの児童にも意欲的に取り組ませるために、第1次での既習の題材を活用する。 ◇時間を区切って運動することで、全ての題材を体験できるようにする。 ◎児童が楽しみながら表現できるように、全ての動きを価値付けるようにする。 海 火山 ジャングル 慣れの運動【モノマネリーダー】 グループの中で番号（1～4）を決め、1番の人から順番にリーダーが交代し、リーダーの動きの真似をする。 【R Tに繋がる働きかけ】 メリハリをつけるため、1番盛り上がる場面を用意させる。（助言） ◇児童の前時の振り返りの言葉や、動画（グループ内で意見交流やミュージカルチームの表現の様子）からめあてを提示する。	
チーム内で考えたことを伝え、劇団熊四の表現を高めることができる。		
4 試しの運動をする。	◇教師の声かけにより、前時のポイント（繋がり）を生かせるようにする。 試しの運動 【Let's チャレンジ】 曲に合わせて、3つのグループ（火山・ジャングル・海）の表現を合わせて、1つの作品にしていく。 【順番】 火山→ジャングル→海 【R Tに繋がる働きかけ】 自分のグループだけでなく、他のグループの表現も注目するように声かけを行う。（評価）	

5 3つのグループを合わせたチーム全体の表現を高めるためにどうすればいいのか考える。 【②課題解決RT】 (チームでの振り返り)	■動画を確認し、いい動きやイメージにふさわしい動き、アドバイスを自分のグループだけでなく、他のグループにも伝える。 ◆伝えにくい児童には、表現シート（模造紙）を用意し、そこに自分の考えを書き出せるようにする。	
6 チームで「盛り上がる場面」を決めて、メインの運動をする。 試し：5分 本番：3分	【RTの教師からの発問】 ・例えば、自分のチームの表現を線で表すとどうなりますか？ ☆児童の気付き ・線で表すと緩やかな波線になる。 ・自分のグループの表現では強調できているけど、チームで見ると、どこが1番伝えたいところなのか分からない。 ・チームで話し合って盛り上がることを決めてみたい。 ➡ キーワード ・はじめ、中、終わり ・山場 ・盛り上がり ◇ホワイトボードに「盛り上がる場面」を明記させることで、チーム内での認識のズレがないようにする。 【RTに繋がる働きかけ】 これまでの既習のキーワードを示し、併せて活用できるようにする。(助言) 【既習のキーワード】 ・みんなで表現 ・メリハリ ・急な展開 ・物語 ・強調 メインの運動 【RTチャレンジ】 曲に合わせて、3つのグループ（火山・ジャングル・海）の表現を合わせて、1つの作品にしていく。(RTを通して) 【順番】 火山→ジャングル→海	☆グループ間で、自分たちが表したい内容や踊りの特徴を捉えた交流の仕方を工夫している。 (思考・判断・表現) 【ワークシート・ICT】
7 6の活動を動画で確認する。 【③本時のめあてRT】 (全体での振り返り)	【RTの教師からの発問】 ・今、自分のチームの表現を線で表すとどうなりますか？ ☆児童の気付き ・線で表すと緩やかな線もあるけど、カクカクした線もある。 ・盛り上がる場面を決めたから、自分のチームが1番伝えたいことがはっきりした。 今日のポイント 盛り上がる場面＝伝えたいこと	
まとめ 盛り上がる場面をつくると、チームで伝えたいことが分かりやすくなり、表現が高まる。		
8 振り返りをする。 (個別での振り返り)	◇児童一人一人の振り返りの言葉を価値付けることで、次時の劇団熊四！5－1オリジナルミュージカル発表会に意欲的に取り組めるようにしていく。	

劇団熊四！～全員・全力・全身で表現する5－1オリジナルミュージカル～		6	5年()組 名前()	
めあて	チーム内で考えたことを伝え、 劇団熊四の表現を高めることができる。			
慣れの運動 【モノマネリーダー】		試しの運動 【Let'sチャレンジ】		
				
リーダーの動きの真似をする。		曲に合わせて、3つのグループの表現を1つにする。		
	4人の中で1番盛り上がる場面を決めておく。			
				
学習を終えてのふり返し				